

ロマン諸語における語の有縁性と比喩表現について (4) – 2

— ロマン諸語（フランス語、イタリア語、ルーマニア語、スペイン語、ポルトガル語）と日本語の故事、諺、成句にみられる四大（地・水・火・空気）による比喩表現を中心として —

小 倉 博 史

〈Résumé〉

On retrouve des expressions comportant le mot «terre» dans toutes les langues romanes, parfois avec un sens analogue comme en français et en italien, parfois avec des expressions identiques mais ayant un sens un peu différent comme en espagnol et en portugais. L'eau est le sujet de nombreux proverbes. Ainsi «la goutte creuse la pierre» et «Il n'est pire eau que l'eau qui dort.» se retrouvent dans toutes les langues romanes, avec la même signification. Idem pour «apporter de l'eau au moulin de quelqu'un». Le proverbe «Acqua passata non machina più» est commun aux langues italienne, espagnole et portugaise. L'expression «à l'eau de rose» a un sens sensiblement différent dans le français, l'italien et l'espagnol. Dans l'expression «avoir l'eau à la bouche», utilisée depuis le XVe siècle, l'eau est métonymie de la bave, en français comme en espagnol. Saliver est une réaction physique naturelle lorsqu'on a faim et que l'on fait face à un plat particulièrement succulent. Concernant l'élément feu, l'expression «mettre la main au feu» signifie «affirmer énergiquement» en français et en italien. Elle évoque de manière lointaine les épreuves médiévales. L'expression «par le fer et par le feu» indique en français la volonté d'utiliser les moyens les plus radicaux, les plus violents. Elle indique la cruauté en espagnol ça signifie «tenter par tous les moyens» en portugais. Pour un Français ou un Roumain, «être entre deux feux» signifie se trouver entre deux dangers menaçants de manière égale. On trouve également des expressions faisant référence à la chaleur, particularité du feu mais beaucoup moins utilisant l'élément «air», corps gazeux invisible, pourtant indispensable pour notre vie mais que l'on respire de manière réflexe, sans vraiment en avoir conscience sauf lorsqu'il vient à nous manquer. Les comparaisons à établir sur ce sujet entre les langues sont difficiles à établir. En japonais, il n'y a qu'un seul exemple: 気 le «ki», qui peut signifier le temps, l'air, la gaieté, l'électricité, le magnétisme, l'énergie, le revenir à soi, le courage ou encore la situation du marché ou une atmosphère qui se propage dans l'air. Les exemples sont très nombreux.

3-1. feu・火

四大	種類	表現	意味	転義
feu	隠喩 激しい	lancer des critiques à plein feu contre qn.	(人に一杯非難の火を投げる→) 人に激しく非難を浴びせる	(コンロなどの) 火, 火事, 射撃, 戦闘, 花火, 明かり, 信号灯, 輝き, (行為などの) 激しさ, 炎暑, ランプ, 灯台
	隠喩 くつろいだ 場所で	au coin de feu [S]	(炉端で→) くつろいだ 場所で	
	隠喩 大急ぎ	avoir le feu au derrière [aux fesses] [R] [S]	(お尻に火を持っている→) 慌てて逃げ出す, 大急ぎである, 性欲が強い	
	隠喩 飲みすぎ	avoir son coup de feu [S]	(火の一撃を持つ→) 飲みすぎている, 忙しい盛り	
	直喩 正反対	C'est comme l'eau et le feu [R] [S]	(火と水のようなものである→) まったく反対である	
	隠喩 集中攻撃	concentrer le feu sur qc.	(～に火を集中させる→) 集中的に攻撃する	
	直喩 ひどく心配 する	craindre [redouter] qc./qn. comme le feu [R] [S]	(火のように心配する [恐れる] →) ひどく心配する [恐れる]	
	隠喩 危険だと知 らせる	crier au feu [R]	(火事だと叫ぶ→) 危険を知らせる	
	隠喩 熱中	dans le feu de qc. [S]	(～の火の中で→) ～に熱中して	
	隠喩 激しい	du feu du dieu [Dieu]	(神の火で→) 激しい, 荒々しい	
	隠喩 打撃を受け る	essuyer le feu	(火を拭う→) 打撃 [侮辱] を受ける	
	隠喩 挟み撃ち	être entre deux feux ¹⁾ [R] [S]	(二つの火の間にいる→) 挟み撃ちされている	
	引喩 危険を冒す	tirer les marrons du feu ²⁾ [R] [S]	(火中の栗を拾う→) 他人のために危険を冒す	
	隠喩 注目の的	être sous le feu des projecteurs [R]	(スポットライトの下にいる→) 注目の的である	

隠喩 熱中	être tout feu tout flammes pour qc./qn. [R]	(～に対してすべての火, すべての炎である→) 血 気盛んである
隠喩 攻撃	faire feu de tous bords [R]	(すべての沿岸から攻撃 する→) 四方八方から攻 撃を仕掛ける
隠喩 手段	faire feu de tout bois [R] [S]	(あらゆる木で火をおこ す→) あらゆる手段を用 いる
隠喩 出来もしない約束をする	faire feu violet	(紫色の火をおこす→) 出来もしない約束をする
隠喩 ゴーサイン	donner le feu vert à [S]	(～に青信号をだす→) ゴーサインをだす
諺	Il n'y a pas de fumée sans feu. [S]	火のないところに煙は立 たぬ
隠喩 急ぐことは ない	Il n'y a pas le feu (à la maison. [R]	(家に火はない→) 急ぐ ことはない
隠喩 怒る	jeter [lancer, vomir] feu et flamme(s) contre qn. [R]	(人に対し人と炎を投げ る→) 烈火のごとく怒る
隠喩 烈火	feu d'enfer [S]	(地獄の火→) 烈火, ひ どい暑さ
隠喩 確信する	mettre la main au feu ³⁾ [R] [S]	(火に手を置く→) 誓う, 確信する
隠喩 勝手	mettre le feu à la maison du voisin pour faire cuire un œuf	(ゆで卵を作るために隣 の家に火をつける→) 自 分の利益のためには何で もする
隠喩 呼び起こす	mettre le feu aux poudres [aux étoupes] [R] [S]	(火薬に火をつける→) 激情を呼び起こす, 騒ぎ を惹き起こす
隠喩 荒廃させる	mettre qc. à feu et à sang [R] [S]	(戦火と流血の場と化す →) (伝統・文化など を) 荒廃させる
隠喩 浮浪者	n'avoir ni lieu ni feu [R] [S]	(火も場所も持たない →) 宿無しである, 浮浪 者である

	隠喩 武力で	par le fer et par le feu [S]	(鉄と火で→) 武力で、 暴力的に	
	隠喩 切迫する	péter le (du) feu [R] [S]	(火に放屁する→) 切迫 する、張り切っている	
	隠喩 しくじる	se jeter dans le feu pour éviter la fumée ⁴⁾ [R]	(煙を避けて火に飛び込 む→) 小事を拘泥して大 事をしくじる	
	隠喩 あおる	souffler sur le feu [R]	(火に息を吹きかける →) 不和をあおり立てる	
(ital.) fuòco	隠喩 確信する	mettere la mano nel [sul] fuòco per qlcu. [ql.co.]	(～の為に火に手を置く →) 人[物] に対して確 信を持つ	火事, (かま どの) 火, (花火の) 火, 熱, 情熱, 発 砲, 焦 点, (地 獄 な の) 業火
	隠喩 情熱的	avere il fuòco addosso	(背中に火を負っている →) 情熱家である, 興奮 しやすい	
	ことわざ	Non c'è fumo senza fuoco	火のないところに煙は立 たない	
(roum.) foc	隠喩 腹を立てる	a lua foc	発火する, 腹を立てる	火災, 銃火, だんろ, 激情, 情熱
	隠喩 かんかんに 怒る	a se face foc	(火が生じる→) かんか んに怒る	
	隠喩 挟み撃ち	a fi (prins) între doua focuri	(二つの火の間に囚われ ている→) 挟み撃ちにあ う	
	隠喩 待ち焦がれ る	a sta pe foc	(火の上に立っているよ うだ→) 待ち焦がれて 苛々している	
	隠喩 破壊しつく す	a trece prin foc si prin apa	(火と水の間を通る→) ありとあらゆる試練をく ぐり抜ける, 破壊しつく す	
	隠喩 胸中を吐露 する	a-si varsa focul	(自らの火を吐く→) 胸 中を吐露する	
	ことわざ	Fum fara foc nicicum se vede.	火のない所に, 煙は立た ない	
(esp.) fuego	隠喩 残虐	a fuego y sangre	(火と血で→) 残虐に	

	隠喩 あおる	atizar [avivar] el fuego	(火をかき立てる [強める] →) (争いなどを) あおる	
	隠喩 激怒する	echar fuego por los ojos	(両目のあたりに火を投げる →) 烈火のごとく (目をむいて) 怒る	
	隠喩 活を入れる	meter fuego	(火をつける →) 活を入れる	
	隠喩 危険な遊び をする	jugar con fuego	(火で遊ぶ →) 危険な遊び をする	
	隠喩 請け合う	poner las manos en el fuego por	(～の為に火の中に手を 置く →) ～を絶対に間違 いないと請け合う	
	隠喩 なぶり殺す	matar a fuego lento	(とろ火で殺す →) なぶり 殺す	
	隠喩 信念	mantener el fuego sagrado	(神聖な火を保つ →) 信 念を持ち続ける	
	隠喩 災難	huir del fuego y dar en las brasas	(火から逃げて、そして 燠を与える →) 一難去っ てまた一難	
	ことわざ	Donde fuego ne se hace, humo no sale.	火のない所に煙は立たな い	
(por.) fogo	隠喩 あらゆる手 段	a ferro e fogo	(鉄と火で →) あらゆる 手段を尽くして	炎, 松明, 火 事, 暖炉, 家 族, 発砲, 火 刑, 狼煙, 暑 さ, 輝き, 閃 き, 情熱, 熱 意
	隠喩 徐々に	a fugo lento	(とろ火で →) 徐々に	
	ことわざ	Donde fogo nao há, fumo se nao levanta.	火のない所に煙は立たな い	

火に手を置くという表現でフランス語では誓う、確信するの意、イタリア語でも確信するの意、スペイン語では請け合うの意、鉄と火でフランス語では武力的にの意、ポルトガル語ではあらゆる手段を尽くしての意、スペイン語では鉄と血で残虐にの意、フランス語とルーマニア語では、二つの火の間に挟まれてから挟み撃ちにあつての意で共通している。フランス語だけにみられるものとしては、炉端でからくつろいだ場所での意、お尻に火を持つから逃げ出す、大急ぎであるの意、水と火のようであるからまったく正反対であるの意、火で激しさを連想することから火のように心配するからひどく心配するの意、火と炎を投げることから烈火のごとく怒るの意、火に息を吹き掛けるから不和をあぶり立てる、青信号をだすことからゴーサインをだすの意、火も場

所も持たないから浮浪者の意、火薬に火をつけることから騒ぎを引き起こすの意、火事だと叫ぶことから危険を知らせるの意、イタリア語だけにみられるものとしては、背中に火を負っていることから情熱家であるの意。ルーマニア語だけにみられるものとしては、発火することから腹を立てるの意、火の上に立っているようだから待ち焦がれて苛々しているの意、自らの火を吐くから胸中を吐露するの意、火と水の間を通ることからありとあらゆる試練をくぐり抜け得るの意。スペイン語だけにみられるものとしては、火をかき立てるからあおるの意、両目のあたりに火を投げることから目をむいて怒るの意、火をつけるから活を入れるの意。ポルトガル語だけにみられるものとしては、とろ火で殺すからなぶり殺すの意、神聖な火を持つことから信念を持ち続けるの意。

3-2. feu・火による比喩表現の要因

	特性	諺 (ことわざ)	連想	引用	合計	R	S
フランス語	1	1	29	1	32	(1) R 18	S 18
イタリア語		(1)	2		2	(1)	
ルーマニア語		(1)	6		6	(1)	
スペイン語		(1)	9		9	(1)	
ポルトガル語		(1)	2		2	(1)	

4-1. air・空気

四大	種類	表現	意味	転義
air	隠喩 露出	à l'air R S	(空気にさらす→) むき出しに、露に	風, 空気の流れ, 航空, 空中, 雰囲気, 環境
	隠喩 広々とした 場所で	à l'air libre R	(自由な環境で→) 広々とした場所で	
	隠喩 野外	au grand air R S	(大きな環境で→) 野外で, 野山で	
	隠喩 初の飛行機 旅行	baptême de l'air	(空中の洗礼→) 初の飛行機旅行	
	隠喩 気分転換	changer d'air R S	(空気を変える→) 気分を変える	
	隠喩 ほっと息の つける場所	bol d'air R	(空気のカップ→) ほっと息のつける場所	

	隠喩 気配	dans l'air [R] [S]	(空気の中に→) (事件 などが) 起こる気配があ る	
	隠喩 逃げろ	De l'air [R]	(風→) 逃げろ, 出てい け	
	隠喩 野外	de plein air [R] [S]	(空気一杯の→) 野外の, 戸外の	
	隠喩 換気する	donner de l'air [R] [S]	(空間をとる→) 換気す る, 風を入れる	
	隠喩 空に向 けて・根拠 のない	regarder en l'air [R] [S]	(空に向けて見る→) 空 の方を見上げる	
		promesse en l'air [R] [S]	(空に向けての約束→) 頼 りない約束	
	直喩 完全に自由	être libre comme l'air [R] [S]	(風のように自由である →) 完全に自由である	
	隠喩 出発する	faire de l'air	(空気を作る→) 出発す る	
	隠喩 実感される 気温	fond de l'air	(空気の底→) (現実に 測定される気温とは別 の) 実感される気温	
	隠喩 逃げ去る	jouer la fille [les filles] de l'air [R]	(空中の女性を演じる →) 逃げ去る	
	隠喩 粗忽者	le nez en l'air	(上を向いて→) うわの 空で, 粗忽者	
	隠喩 図々しさ	ne pas manquer d'air [R] [S]	(空気が不足していない →) 厚かましい	
(ital.) ària	隠喩 霞を食べて 暮らす	campare d'aria	(空気で暮らす→) 霞を 食べて暮らす	戸外, 野外, 空, 空中, 風, 気配, 様子, すきま風, 気 候, 環境, 態 度, 様子, 歌 曲
	隠喩 野外で	dormire all'aria aperta	(野外で眠る→) 星空の 下で眠る	
	隠喩 無と化す	andare all'aria	(空気に達する→) 無と 化す, 失敗する	
	隠喩 遠回しに	mezz'aria	(中空に→) 遠回しに, ほのめかして	
	隠喩 ぼんやりし ている	avere la testa in [per] aria	(空中に頭を持っている →) ぼんやりしている	

	隠喩 適当ではない	Non è ària di + inf.	(～する様子ではない →) いまは…する時期ではない	
	隠喩 風が吹く	tirare ària	(空気を引く→) 風が吹く, 風の吹き回しである	
	隠喩	darsi ària di	(空気に没頭する→) (の) ふりをする	
(roum.) àer	隠喩 外へ出る	a lua àer	(空気を取る→) 新鮮な空気を吸いに外に出る	様子, 外観
	隠喩 気取る	a-si da aere	(空気を授与される→) 気取る	
	隠喩 心ここにあらず	a pluti în àer	(空中に漂う→) 心ここにあらず	
(esp.) aire	隠喩 気取る	darse aires	(空中に没頭する→) 気取る	空間, 風, 外見, 様子, 雰囲気, 態度, 気取り, 類似, 発作, つまらないもの, (馬の) 足並み, 拍子, 曲
	隠喩 野外で	dormir al aires libre	(自由な空気の中で眠る→) 野宿する	
	隠喩 熱を上げる	beber el aires por ~	(～の為に空気を飲む→) …に熱を上げる, …に首っただけである	
	隠喩 転地療養	cambiar [mudar] de aires	(空気を変える→) 転地療養をする	
	隠喩 理解が早い	cogerlas [matarlas] en el aires	(空気でつかむ→) 理解が早い	
	隠喩 金遣いが荒い	dar buen aires al dinero	(お金に良い空気を与える→) 金遣いが荒い	
	隠喩 露出	echar al aires	(空気に放つ→) (体の一部を) むき出しにする	
	隠喩 未完成・未解決	estar en el aires	(空中にある→) 未完成 [未解決] である	
		dejar en el aires	(空中に残す→) 未解決のままにしておく	
	隠喩 変わりやすい	mudar a cuaalquier aires	(どんな空気にも動く→) 変わりやすい, 気紛である	
	隠喩 空約束	promesa en el aires	(空気の約束→) 空約束	

	隠喩 言いなり	seguir [llevar] el aires a (+ uno)	(人の空気に従う→) (人)の言いなりになる	
	隠喩 頭が空っぽ	tener la cabeza llena de aires	(空気で一杯の頭を持っ ている→) 頭が空っぽで ある	
(port.) ar	隠喩 野外	ao ar livre	(自由な空気で→) 戸外 に, 野外で	風, 空, 空中, 様子態度, 麻 痺, 環境, 雰 囲気
	隠喩 即座に	apanhar no ar	(空中で理解する→) 即 座に理解する	
	隠喩 類似点	ar de familia	(家族の空気→) 家族全 員の類似点	
		dar uns ares de ...	(～の空気を与える→) ...と似ている	
	隠喩 献身・熱愛	beber os ares por ...	(～の為に空気を飲む →) ...に献身する, 熱愛 する	
	隠喩 威張る	dar · se ares de ...	(空気を自認する→) 気 取る, 威張る	
	隠喩 ...ぶる	dar · se ares de ...	(～の空気を自認する →) ...のような態度をと る	
	隠喩 でたらめを 言う	dizer coisas no ar	(空中にものを言う→) 根も葉もないことを言う	
	隠喩 飛ぶ	ir pelos ares	(空中に行く→) 吹き飛 ばされる	
	隠喩 散歩する	tomar ar	(空気を取る→) 散歩す る	

4-2. air・空気による比喩表現の要因

	特性	諺 (ことわざ)	連想	引用	合計	R	S
フランス語			18		18	R 14	S 10
イタリア語			8		8		
ルーマニア語			3		3		
スペイン語			13		13		
ポルトガル語			10		10		

[意識しない]

空気のような存在

[通じあう]

気が合う－気持ちに通じあう。互いに気分が一致する

[逆上する]

気が上がる－かっとなる。のぼせる。逆上する

[気分が新しくなる]

気が更まる－気分が新しくなる

[関心がある]

気がある－関心がある、心がかたむく

[素直]

気がいい－気持ちが素直である。気立てがいい、

[心配する]

気が痛む－心配する

[移り気]

気が多い－心が定まらないで移り気である。

[心が広い]

気が大きい－細かなことに気をかけないで、心が広い。

[元気づく]

氣を得る－氣力が回復する

[気分を転換する]

氣を変える－気持ちを持ちなおす

[注意を向ける]

氣を配る－注意を向ける。氣をつける

日本語では空気は人間が生きるための基本的なもののなので、日常その存在を気にも留めないことから意識しないことの意を表す表現だけである。しかしながら、『広辞苑』で、「天地間を満たすと考えられるもの。また、その動き」と定義されている「氣」については、森本哲郎によれば、日本語のなかでいちばん多く登場する語で、「氣」と組み合わせた単語や表現を数えれば千以上もあるそうで、天気、空気、陽気、電気、磁気などの自然現象に始まり、元気、正気、勇気、気色、気分、景気、気力…といった心理現象、また雰囲気、気配というような状況に至るまで日本人はすべてを「氣」のせいにしている⁵⁾とのことである。

空気については外気に触れることから露に、野外に、自由などの点でロマン諸語に共通である空気を換えることからフランス語では気分を変える、スペイン語では転地療養をするの意、スペイン語、ポルトガル語では空気を飲むことから熱を上げる、熱愛するの意、空中でつかむから理解が早い等で共通している。フランス語だけにみられるものとしては、空中の洗礼から初の飛行

機旅行、空気のカップから息のつける場所、空に向けて見るから見上げる、空に向けての約束から頼りない約束、空を向いてからうわの空、空気が不足していないから厚かましい、イタリア語だけにみられるものとしては、空気で暮らすから霞を食べて暮らす、中空から遠回しに、空中に頭からぼんやり、ルーマニア語だけにみられるものとしては空中に漂うから心ここにあらず、スペイン語だけにみられるものとしては空中にあるから未完成である、空中に残すから未解決のままにして、空中の約束から空約束、ポルトガル語だけにみられるものとしては家族の空気から全員の類似点、空中にもの言うことから根も葉もないことを言うの意などのように、いずれもアナロジックな思考に基づくものである。

5. おわりに

地については、フランス語、スペイン語、ポルトガル語で、表現は類似しているが、意味が微妙に異なっているものがある。フランス語とイタリア語では類似の表現から意味も類似しているものがある。スペイン語とポルトガル語では表現は類似しているが、意味が異なるものがある。

水については、「点滴石を穿つ」を含めて2例、ロマン諸語に共通している。ルーマニア語を除くロマン諸語において、自分の田（風車）に水を引く→我田引水の諺がある。イタリア語、スペイン語、ポルトガル語では表現は異なるが覆水盆に返らずの諺が共通している。バラの水という表現では、フランス語、イタリア語、スペイン語では意味が微妙に異なっている。フランス語とスペイン語では水、つまり涎の *métonymie*（換喩）で、前者は欲しくてたまらない、後者は舌なめずりするの意で、ほぼ同じである。火については、フランス語とイタリア語では、火に手を置くという表現で、確信するという意で共通している。鉄と火という表現で、フランス語では、武力的に、スペイン語では、残虐に、ポルトガル語では、あらゆる手段を尽くしての意である。フランス語とルーマニア語では、二つの火の間から挟み撃ちにあつての意で共通している。火については、火の熱、火の特質、火の燃えている様子などからの連想に基づく表現が主である。空気については他の要素と比較すれば、少数である。これは気体で見えないこと、そして人間が生きるための基本的なもののなので、日常、その存在をほとんど意識しないことと無関係ではないと思われる。ただし、日本語では空気による表現は1例しかないが、「気」による表現は数多くある。

注

- 1) この成句は火薬の発明以前からのものなので、ふたつの火は鉄砲や大砲の火ではなく、火事を意味する。だから、前後から野火に迫られた姿である。(田辺貞之助：「フランス故事ことわざ辞典」p. 43)
- 2) ラ・フォンテーヌの「寓話」の「猿と猫」からの引喩。イタリア語では *cavar la castagna dal fuoco con la zampa del gato* 「猫の前脚で火中のクリを掘る」、スペイン語では *sacar le a (+ uno) las castanas* 「人のために火中のクリを取り出す」
- 3) 14 世紀の聖ルイ王の時代まで、フランスでは罪の有無や訴訟上の事実の可否を決定するのに特別な方法がとられた。被告は火中から取り出したばかりの赤熱した鉄棒を右手でつかみ、9 ないし 12 歩歩くか、または炉で熱した鉄の手袋に右手をつっこむ、それからその手を布で包み、裁判官が布の上に封印を捺す。そして、3 日たって布をとりつけたとき火傷の跡がなければ無罪とされた。被告が清廉潔白であれば神が擁護をくわえて、火傷の跡がつかないはずだという信仰に基づくものである。こうした神の審判は世界各国にみられたという。(田辺貞之助著：前掲書：pp. 41～2)
- 4) 類似の表現として *se mettre [se coucher] dans l' eau de la peur de la pluie* (雨を恐れて水の中に入る→) 小難を避けようとして大難を招く
- 5) 森本哲郎著：「日本語の表と裏」p. 93

参考文献

- 池田峯夫他編 (2003)：「現代ポルトガル語辞典」，白水社
 池田廉他編 (1983)：「伊和中辞典」，小学館
 伊藤太吾著 (2001)：「ロマンス語ことわざ辞典」，大学書林
 桑名一博他編 (1990)：「西和中辞典」，小学館
 「小学館ロベール仏和大辞典」(1998)，小学館
 尚学図書編 (1982)：「故事・俗信ことわざ辞典」，小学館
 鈴木信太郎他著 (1987)：「新スタンダード仏和辞典」，大修館書店
 田辺貞之助編 (1977)：「フランス故事ことわざ辞典」，白水社
 田村毅他編 (2005)：「ロワイヤル仏和中辞典」，旺文社
 直野敦著 (1984)：「ルーマニア語辞典」，大学書林
 森本哲郎著 (1985)：「日本語の表と裏」，新潮社
 渡辺高明他編 (1983)：「フランス語ことわざ辞典」，白水社
 Rey, A. et Chantreau, S (1985): *Dictionnaire des expressions et locutions*, Paris, Robert